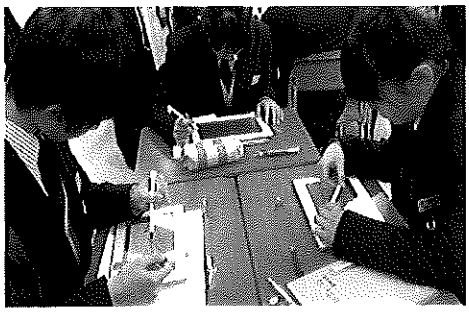
小中一貫教育全国サミット　in つくば　に参加して

教育政策課　指導主事

つくば市は国における最先端の研究を行う研究機関が多くあり、つくば市の全児童生徒の１割が科学者の子どもであり、生活水準が高いと感じた。また、つくば市では、３０年以上前からコンピュータの教育への利用を先進的に行っており、小・中学校５３校すべてに電子黒板、タブレットが配置されている。

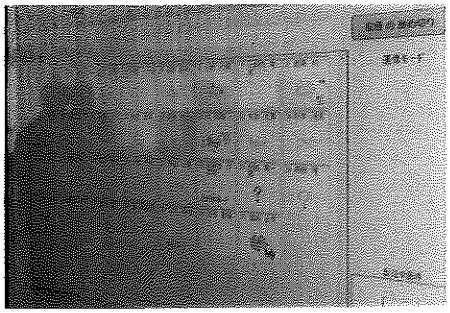
１　宗像市の情報教育の推進に活かしていくこと

どのクラスの授業を見ても、学級担任（教科担任）は、ＩＣＴ支援員のサポートなく、効果的に　スムーズにＩＣＴ機　器（電子黒板・デジタル教科書・実物投影機・タブレットＰＣ）を活用していた。数学の授業を例にいうと、導入段階では、問題提示を電子黒板で行ったり、自力解決の場面では、タブレットに自分の考えを書き込んだりしていた。（資料１）



（資料１）タブレットに書き込んでいる様子

交流の場面では生徒全員のタブレット画面が電子黒板に写されており、教師はその中から意図的指名を行い、指名された生徒は、電子黒板で自分の考えた内容を拡大して説明していた。（資料２）今後，具体的なＩＣＴの活用方法について，子ども達の発達を踏まえて整理し，機器取扱いの習熟に応じて学校へ情報提供していきたい。また、教師のＩＣＴ活用指導力を高めていくために、市主催の研修会や校内研修会の充実を図っていきたい。



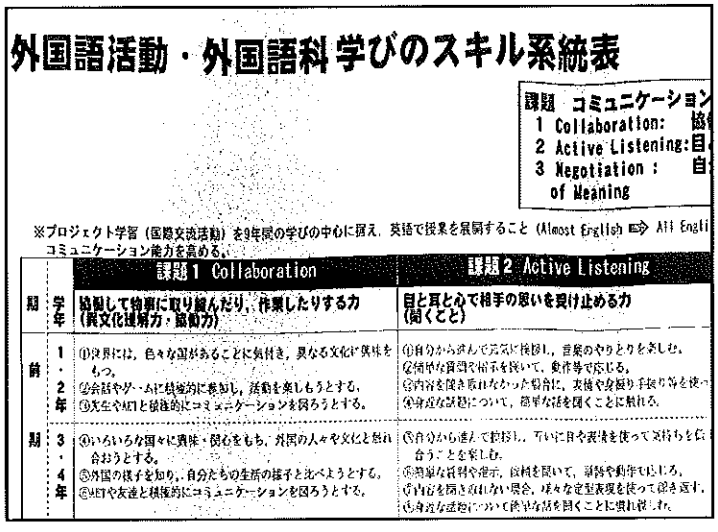
（資料２）生徒全員の考えが映し出された電子黒板

２　宗像市の小中一貫教育の推進に活かしていくこと

主体的に学び論理的に考えるためのスキルを学ぶ「考える時間」の設定（資料３）、教科領域ごとに９年間で身につけさせたいスキルを系統化した「小・中の連続性を意識したカリキュラム開発」（資料４）の取組が参考になった。宗像市小・中学校でも，９カ年を見通した教科領域のカリキュラム作成に取り組んでいるが、評価・改善し、さらに強化して必要がある。そこで、今回つくば市で学んだ「各教科ごとの論理的に考えるための「考える技と考える道具」、「育成すべき重点スキル」等を研修会で説明し、カリキュラム改善の視点に取り入れられるようにしていきたい。

論理的に考えるための「考える技」と「考える道具」

No.	考える技	定義	考える道具
1	比較する	複数の事象の相違点や共通点を見つけだす	・ベン図 ・座標
2	分類する	複数の事柄をある共通項に基づいていくつかの組に分ける	・X・Yチャート
3	関連付ける	既習事項や経験と事柄を結び付ける	・イメージマップ ・カメカメ図 ・コンセプトマップ
4	推論する	事実や類似点をもとにして別の事柄を推しはかる	・キャンディ・チャート
5	多面的にみる	視点や立場を変えてみる	・くまでチャート ・バタフライ・チャート
6	分析する	あるものごとを分解して，それを成立させている成分・要素・側面を明らかにする	・フィシュボーン
7	評価する	自他の学習の結果の正しさや特徴，よさを確認し指摘する	・PMIシート
8	構造化する	複数の事柄の関係を構整する	・ピラミッド・チャート



外国語活動・外国語科学びのスキル系統表

課題　コミュニケーション
1 Collaboration:　協
2 Active Listening:目
3 Negotiation :　自
of Meaning

※プロジェクト学習（国際交流活動）を9年間の学びの中心に据え，英語で授業を展開すること（Almost English ⇒ All Engli
コミュニケーション能力を高める。

	学年	課題1 Collaboration	課題2 Active Listening
		協働して物事に取り組んだり，作業したりする力（異文化理解力・協働力）	目と耳と心で相手の思いを受け止める力（聞くこと）
前期	1・2年	①世界には，色々な国があることに気付き，異なる文化に興味をもつ。 ②会話やゲーム等に積極的に参加し，活動を楽しもうとする。 ③文生やALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	①自分から進んで元気に挨拶し，言葉のやりとりを楽しむ。 ②簡単な質問や指示を聞いて，動作等で応じる。 ③内容を聞き取れなかった場合に，表情や身振り手振り等を使って ④身近な話題について，簡単な話を聞くことに慣れる。
後期	3・4年	①いろいろな国々に興味・関心をもち，外国の人々や文化と触れ合おうとする。 ②外国の様子を知り，自分たちの生活の様子と比べようとする。 ③ALTや友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	①自分から進んで挨拶し，互いに目や表情を使って気持ちを伝え合うことを楽しむ。 ②簡単な質問や指示，説明を聞いて，言語や動作で応じる。 ③内容を聞き取れない場合，ゆっくりな発音表現を使って聞き返す。 ④身近な話題について簡単な話を聞くことに慣れ親しむ。

（資料３）論理的に考えるための「考える技と考える道具」（資料４）９カ年を見通した学びのスキル系統表の一部